

2つの願いが込められた夏まつり大会 「致芳橋」の早期実現と「新型コロナウイルス」の終息を願って



花火画像提供：鈴木 亮さん（下宿）

8月22日、致芳の夏の風物詩「致芳橋」架橋促進夏まつり大会を開催しました。この大会は、致芳地区ふるさとづくり促進協議会（会長鈴木義二）が主催し、毎年開催しています。今年も、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策として大勢の人が集結する「盆踊り」を中止し、「打上花火」と「大抽選会」の2つに絞り、例年の内容から形式を変えての開催となりました。また、この世情を考慮し、あかしあ産業団地会はじめ、地域内の各企業や店舗からの「協賛金」は自粛させていただきました。

午後7時30分、致芳河川敷地スポーツ公園グラウンドより大小合わせて約400発の花火を約20分間にわたり打ち上げました。現地の堤防には、約100人の見物客が訪れ、それぞれ間隔を取りながら観覧していただきました。特にフィナーレの100連発は見ごたえがあり、会場では大きな拍手が沸き起こりました。今年も、バーベキューをしながら楽しまれた家庭も多く見受けられました。ご覧になった方からは、「自粛ムードの中で花火を見ることができて感動した。」や「この状況で花火を打ち上げた致芳を誇りに思う。嫁に来て本当に良かった。」などと言った声も寄せられました。

9月1日には、致芳地区全戸を対象とした「大抽選会」の当選発表を行いました。事前に抽選券を配布させていただいたの初の試みでした。今年の賞品総数は50本。当館の産業振興部会が主管となり、賞品のラインナップを行いました。1等賞品の自動車用タイヤ券をはじめ、致芳地区内の各店舗の逸品を揃えました。当選された方には、コミュニティセンターの窓口で贈呈させていただきました。

今年も、「致芳橋」の早期実現の願いに加え、新型コロナウイルスの終息を願う意味合いが込められた特別な夏まつり大会となりました。来年は、地域住民が一堂に会して盛大に開催できることを祈っております。



草刈作業ありがとうございました。



抽選会の様子